

「愛知県その道の達人」派遣事業 実施報告書

達人名	中森 康之 先生 (俳句の達人)
実施校	西尾市立福地北部小学校
実施日・時間	平成20年6月10日(火曜日)
実施学級	3年1組 対象人数20人 5年1組 対象人数27人
授業の実際	<p>【3年1組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任による達人の紹介 ・達人による俳句の作り方の説明 「五七五の世界で一番短い詩だから、取っても分かるものは全部取りましよう。」 「五七五で表現するわけなので、なるべく説明をしないで作るんだよ。」 「俳句はいろいろな見方、観点があるんだよ。」 「うれしい、かなしい、楽しいということばを使わないで、その気持ちを伝えましょう。」と教えていただきました。その後、子どもが作った俳句を例にとって具体的に説明してくださいました。 ・子どもが俳句をつくる (心が動いたことの俳句) ・子どもの授業の感想の発表 <p>【5年1組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任による達人の紹介 ・子どもたちがつくった俳句を発表 (夏の俳句) ・達人による俳句の批正、俳句づくりへのアドバイス 5年生では、「達人の授業を受ける」ために子どもたちが予め「福北の森」で感じたこと、心が動いたことを題材に俳句を作りました。アジサイや青葉風で詠んだ子が多かったようです。中森先生が子どもの俳句を例にとって「アジサイのどっしり感が出ているね。」「アジサイからは予想もできない言葉をもってきて、それがいいね。」「ここは切れ字を使ったら、どうかな。『あじさいは 心が和む ピンク色』が『あじさいの 心和むや ピンク色』となるよ。切れ字を入れるとカッコよくなるでしょう。」など、よく分かるように説明してくださいました。 ・子どもの授業の感想の発表
児童生徒の感想	<p>子どもからは「使ってはいけないことばがよく分かった。」「つくった俳句のよいところ、悪いところがよく分かった。」「今日教えていただいたことに気をつけて、もう一回つくってみたい。」という発言がありました。</p>
教員の感想	<p>教師にも、子どもの発達段階に合った俳句の指導法についてご指導いただきました。また、「俳号を決めて、句会をしたら面白いですよ」というご提案もいただきました。授業の流れは、基本的にこの流れでよいと思います。</p> <p>本校では、まもなく、「夏の俳句」を作る時期です。今日教えていただいたことを生かして、楽しく作りたいと思います。</p>



